

学校通信

7

2024 JUL.

第 254 号

学校生活における大切なお知らせです

学校長からのメッセージ

◆先日、各学校が集まる会合で、大阪府の福祉部・障がい福祉室の方から、各校の生徒による作文応募の協力要請がありました。作文のサブタイトルは「障害のある人とない人との心の触れ合い体験を広げよう」でした。私は唖然としました。

高校生がこのタイトルを見た時、どう思うでしょう。まず、身の回りに「障害がある人は誰か」と考えるでしょう。その一方で、自分は「障害がある人」なのか「ない人なのか」悩む人もいるでしょう。この作文企画は、区別を促しているようで、時代に逆行していると思えず驚いたのです。

◆そこで思わず手をあげ、「障害がある・ないで分けられない人がどこにもたくさんいます。本校では『障害がある人』と『ない人』を区別していないし、区別できません。障害をその人が持つ個性や特性として捉え、多様な人たちが共に過ごせる空間を私たちは考えています。困っている人がいたらどう配慮、支援するかを考えているのです。このように、障害がある人とない人を区別し、その意識を助長させるような作文に本校は協力できません」と言いました。

◆車椅子の人がいます。

すべての道が平坦で、どんな場所でもスムーズに出入りできるなら、移動に障害はありません。障害は、社会のありようで変わります。つい先日、車椅子の生徒が、クラスメイトと誘い合わせてカラオケを楽しんだそうです。中学校まではクラスメイトと距離があり、そのようなことはなかったと聞きました。誰もがゆるやかな集団の中の一人となっていく。その優しさがこの YMCA の中にあるように見えます。

◆場の空気を読むのが苦手な人がいます。

高校生活の中で「〇〇さんは空気読めないから、しんどいなあ」と感じることもあるかもしれません。でも、共に学びながら過ごす中で、世の中には多様な人がいることを知り、ふと「自分も苦手な部分があるよな…」と思えるような自己理解が進むと、場の空気を読むのが苦手なことも相手の個性として認め、お互いに受け入れることができるようになります。

あなたは、あなたでいいのです。「みんなちがって、みんないい（金子みすゞ）」。

(校長 鍛冶田 千文)

「主はわたしたちを造られた」詩編 第 100 編 3 節





今月の聖句

「あなたがたはキリストの体であり、
また、一人一人はその部分です。」

(コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章 27節)

私たちは時々、自分で自分の価値を勝手に決めつけてしまうことがあります。思い上がって自分を過大評価し、他人を見下して、自分はいつらとは違うんだ、あんな奴らと一緒にしないでほしい、などと思ってしまうことがあります。逆に、自分を過小評価してしまうこともあるでしょう。自分なんか生きていても意味がない、自分がいなくなっても誰も困ったりしない……。

でも、自分自身でそんな評価をしなくていいのです。その時の気分によって自分に対する評価が変わってしまうならば、その評価が正しいかどうか、あやしいものです。そんな自分の評価に心を囚われるのではなく、正しく評価してくださる神様の言葉に耳を傾けてみませんか。神様は、一人一人がキリストの体の部分であると言われるほど、私たち一人一人を大事に思ってくださっているのです。体の中で必要ない部分がないように、神様には必要ない命などないのです。必要とされていることを忘れないでいてください。

(日本キリスト教団 河内長野みぎわ教会 福島義也 牧師)

